

剣の道正しく強く美しく

石川県新化館 中学三年 指本 悠稀

今日の合宿の中で一番印象に残っている言葉は京都の緒方先生がおっしゃられた「剣の道正しく強く美しく」です。この言葉のとおり、今日の合宿では基本を正しく覚えたい。というところを重点的に行ってきました。基本を正しく覚える事は剣道の上達に一番重要な要素だし、正しく覚えることが、強い剣道、美しい剣道へと繋がっていくのではないかな

あと思いました。八段の先生方は正しいものを感じてこられたから、強く、美しい剣道が出来るんだと思う。また、来てください。っていった八段の先生方全員と稽古させていただけだ。たのびすが、そこで最も強く感じました。これは、ほんとうに「無駄」がないという。こと。です。無駄な動作、力、癖が無いか。あれほど強くなれるのだと強く感じました。剣道は合理的にできる人が強い人だし、逆に言えば、無駄があれば、そこは「隙」となる

ため、負けてしまふのだと思ひます。基本打
突の説明の中で、決められた部位を合理的
な動作で足さばきを伴つて打突する動作の事
という風に合理的という言葉が入つてきます。
それほど剣道という武道は無駄のない人
ほど強くなれるものなのだと思感できました。
もう一つ、緒方先生の講話の中で印象に残つ
た言葉は、剣道で求められる4つの「美しい
すなわち、身体之美、心之美、稽古之美、有
終之美の四つです。剣道で求められる「美しい

す」にはこの四つの条件が求められてきます。
身体とは構えや姿勢、心とは礼儀作法、稽古
とは気と気でぶつかる事、有終とは残心の事
でこれらを美しくすれば、強く日本が誇れる
ような選手になれると自分では考えています。
また「心」も剣道としても密接に関わり合
つています。例えば心が乱れてしまふと剣先
にもそれが表れて、剣先が定まらぬにぐち
ぐちやしたり、すぐに手元が上がつてしまひ
ます。「剣は心なり」という言葉もあります。

か、心が乱れば竹刀も乱れてしまいます。逆
に言えば、心というものは目では見えな
いのなので、竹刀という目に見えるもの
を整えることでは竹刀と心はつながら
ないか、あと思っ
ています。また、心についていつも自分
が意識してやるのは、試合では自分が一番強
いと、練習では自分が一番弱いと思
うことでは、二水は試合では自分に自信
をもったため、練習では常に向上心をも
つて取り組むため、二水は今後とも継続
していきこうと感じました。二水は、今
回の合宿では、毎日刺激的でとても果
然としたし、限られた人しかできない
経験をさせていた。たいてい、とても感
謝しています。この経験を自分が中心と
なっていて、自分の道場や石川県全体に
発信できるようにしたい。こうと思いま
す。

今回の合宿では、毎日刺激的でとても果
然としたし、限られた人しかできない
経験をさせていた。たいてい、とても感
謝しています。この経験を自分が中心と
なっていて、自分の道場や石川県全体に
発信できるようにしたい。こうと思いま
す。